



武隱基取話

四

津田文庫  
文庫 1  
1527  
4



赤原



武隱叢話卷之四



つた文庫

駿府より川窪興在<sup>くわ</sup>方<sup>かた</sup>に風呂振舞<sup>かぶり</sup>の皆<sup>みな</sup>の行  
 甲州先方元曆<sup>もとに</sup>の<sup>こと</sup>は余武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>高<sup>たか</sup>亭<sup>てい</sup>之<sup>の</sup>法<sup>は</sup>出<sup>で</sup>何<sup>なん</sup>以<sup>い</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>他<sup>た</sup>の<sup>こと</sup>と云<sup>い</sup>名<sup>な</sup>の<sup>こと</sup>甲<sup>こう</sup>州<sup>しゅう</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>難<sup>がた</sup>法<sup>は</sup>は<sup>は</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>中<sup>なか</sup>興<sup>きよ</sup>在<sup>ざい</sup>の<sup>こと</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>甲<sup>こう</sup>州<sup>しゅう</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>  
 乃<sup>すなは</sup>ち<sup>は</sup>信<sup>のぶ</sup>玄<sup>げん</sup>と云<sup>い</sup>乃<sup>すなは</sup>ち<sup>は</sup>其<sup>その</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>  
 津<sup>つ</sup>信<sup>のぶ</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>甲<sup>こう</sup>州<sup>しゅう</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>  
 惣<sup>そう</sup>陣<sup>じん</sup>夜<sup>や</sup>籠<sup>かご</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>甲<sup>こう</sup>州<sup>しゅう</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>甲<sup>こう</sup>州<sup>しゅう</sup>の<sup>こと</sup>は<sup>こと</sup>武<sup>たけ</sup>迎<sup>むか</sup>ひの<sup>こと</sup>

010190608960



先皇は上秋沙公帝の御事二の先皇に心城の御事  
之書は皇孫才四葉上此亦雲林形亦亦海  
四書は確信旗也上秋沙公帝志也川の宗  
也一色毛養と平帝との中一後一色一宗入重長  
の教し川（ホ入）中一色（合）別朝朝妙の二備  
皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨

後、い沙公帝の御事二の先皇に心城の御事  
之書は皇孫才四葉上此亦雲林形亦亦海  
四書は確信旗也上秋沙公帝志也川の宗  
也一色毛養と平帝との中一後一色一宗入重長  
の教し川（ホ入）中一色（合）別朝朝妙の二備  
皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨  
し皇孫の御事押（廻）沙公帝扶物として臨



伊後沙流地を日暮宿見よりの雲霞の地を  
少頃法成りてかへし恨みなき船山原より  
少く流成りてくさくさなるは光るなりと  
ふくむる間には流しゆく是故に上原より  
とて思ふ信りなきはくはりてはるゝもの  
しり作出りてはるゝ半何うしてはるゝ  
日暮流し其くく視し隠し思ひてはるゝ  
之流は流しゆくは流しゆくは流しゆくは  
流しゆくは流しゆくは流しゆくは流しゆく  
おとと將ふりての多し一子飯對馬は上原の家

をのつて也入る事しるさめく何人ち事し使  
よ哉とて一席將の所仁辨ありけりて  
井由中の隠居しは流しゆくは流しゆくは  
おとと將ふりての多し一子飯對馬は上原の家  
茶湯とのりり安田上総介の御用  
流しゆくは流しゆくは流しゆくは流しゆく  
及くも別の方をさしてはぬりて中  
くはるゝものせりり杉原常陸守の御用  
とて年へしはるゝものせりり杉原常陸守の御用  
とて年へしはるゝものせりり杉原常陸守の御用

夏より勝なる勿勝せし字又詩哥の達  
智も武と兼なる共也此の天中の中は  
よのつとくし、ゆゑに仁勝なり徳勝  
下と勝なる智の成を看みたる人非  
その和能兵多しとく、た、そのゆゑ、  
北果く二代二代、た、た、門田沼

一 聚樂城より秀吉各年改力の礼は徳力の  
上秋田勝より先づ、重田利家出、向、河原橋  
押、く、甲、宰相、く、我、く、官、也、中、を  
殿、は、く、く、集、出、は、く、く、く、利、家、は、先、出

人、く、く、里、を、く、く、く、利、家、く、く、達、乙、く  
く、く、物、尾、市、の、中、村、武、部、板、く、事、深、秀、各、の、内、茶  
め、く、の、事、也、は、か、上、秋、至、家、は、京  
く、く、あ、く、其、内、の、利、家、中、約、く、く、あ、く、く、何  
事、く、く、く、く、

一 武州をめぐり備へ、武政輝光野陣の  
左向、之、樂、別、人、の、所、法、を、信、共、一、活、く、く、意、之  
樂、傳、く、く、道、之、樂、之、會、を、同、好、席、也、十二、年、く、く、  
く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、  
利、家、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、

川舟くくも書くしつたり人妙の由政人致は  
未來世の由の事く輝光其くく人質の事く  
内らるも此類例或くく遠く河くはくく  
くもくも播候の事くはくくは國東の事くはく  
感くくゆり

一 佐久河内國守実政との縁云大坂陣の事くはくは  
形合致ぬ小栗又市吉忠し吉しと人援使の  
は伊右上月也くは吉忠の略也くはくは今福島の  
柵河に渡り佐市吉忠の伊右為代執中も伊東  
太馬允安及海彦の伊右も是も播候の略の略の柵

五市也の伊右直に城守の事くはくは興成より  
高陣はたる人馬の長城の事くはくは  
ゆきし一佐久河内守實政の播候の事くはくは  
はくはく一戦の事くはくは十三年の城守の事くはくは  
新といはくはくはくはくはくはくはくはくはくは  
よはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは  
ハ井上武節の海内内守實政の略の事くはくは  
力の事くはくはくはくはくはくはくはくはくはくは  
くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくは  
藩主に之城守の由候河内守實政の略の事くはくは



この場より南に和川の程は場切  
今も是の地田之に在國より上は所存中の脈脈に  
因りて一軍之を兵りしむ能くしはるべき  
其日の午ノ刻より大坂七段と亦成りて一之作  
東丹後長安連水甲斐守先之中書式部卿由程  
御村伊予雅之と御量儀も於色也此の由云々  
猶如も付の云漏れ重信場より一略其令福書に  
破りしと因りて其の破りしと久世の所元  
治長亦村より其の事も海辺内御下乳也此の事  
亦裏より上秋先の酒田より船亦長也此の事新也

西へ渡地ししは後乃ありて其國大赤なるは此  
も村等廻合しし大坂方を其の事也此の事  
柳の上村方治地大將石田新左衛門場也此の事  
死絶すといし其余人も討たれし揮りしと云々  
二乃きしと其の上無き事くは海内照輝也  
之しは其酒田の事也其の事也其の事也  
ししは其の事也其の事也其の事也  
江の中へは其の事也其の事也其の事也  
其の事也其の事也其の事也其の事也  
其の事也其の事也其の事也其の事也  
其の事也其の事也其の事也其の事也







久野門洲尾より活地は歩山百餘の地入各  
昨海迎内庭中へ迎せりありて一里の道との  
つらき人の喉乾く事ありて一里の道との  
と造りて色人せりて迎せりて

活地は歩山百餘の地入各  
昨海迎内庭中へ迎せりありて一里の道との  
つらき人の喉乾く事ありて一里の道との  
と造りて色人せりて迎せりて  
活地は歩山百餘の地入各  
昨海迎内庭中へ迎せりありて一里の道との  
つらき人の喉乾く事ありて一里の道との  
と造りて色人せりて迎せりて

より活地は歩山百餘の地入各  
昨海迎内庭中へ迎せりありて一里の道との  
つらき人の喉乾く事ありて一里の道との  
と造りて色人せりて迎せりて  
活地は歩山百餘の地入各  
昨海迎内庭中へ迎せりありて一里の道との  
つらき人の喉乾く事ありて一里の道との  
と造りて色人せりて迎せりて

大津新原と清浦と









大判とてんぐ  
幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

幕府への贈答のたすけ

一 後及又高の世量幕塚小徳乃城代是回長政より

新り二百石河原と和川と云元

神川器具一里回中無事器具所蔵少食乃揮

修少の井と因流もさるがれいも像小等小徳乃

ハ後及又高の世量幕塚小徳乃城代是回長政より

後及又高の世量幕塚小徳乃城代是回長政より

後及又高の世量幕塚小徳乃城代是回長政より

後及又高の世量幕塚小徳乃城代是回長政より

ふり思ふ事ありては之を以て今世に推籍しんせきとの事  
町人法切の酒意より花乃りしと云は後世  
く切くしと苦くし同中くしと苦くしと  
別居の元因神人ありては計九有月持く出  
難多の海より津より病より此は此何事  
くし結多ははくくくくくくくくくくく  
名宗の切しと事と事と事と事と事と事と  
ありてしと事と事と事と事と事と事と  
りてはははははははははははははははは  
亦中表持有りゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

く世を非と自らは海より古代ゆりしと  
程はははははははははははははははは  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
事と事と事と事と事と事と事と事と事  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
是非なる宗の切しと事と事と事と事と  
黒田家元後及又書之編之陰波く事と事  
ゆりてはははははははははははははは  
く切の津より事と事と事と事と事と事  
陰の事又高の子の事と事と事と事と事

年月三つ目は御集と云流して然し一飛も  
長政素門の如く又書之良少なり我の二代男  
何の如しと云々も云々後世留又市と云  
しと云々也れ少く長政流も云々も報と云々  
は少く云々也れ少く云々も博多の徳を云々社  
よ徳を云々也れ少く云々も後及又市と云々也れ  
答報も云々也れ少く云々も長政の能の報  
は云々也れ又市は云々也れ少く云々も徳の  
常報も云々也れ少く云々も徳の能の報  
なりし十二里也れ少く云々也れ少く云々也れ

し身流合は又書之良少なり我の二代男  
も云々也れ少く長政流も云々も報と云々  
進い少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
閑し少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
我も少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
は少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
い人少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
又書之良少なり我の二代男  
長政も少く云々也れ少く云々も徳の能の報  
也れ少く云々也れ少く云々も徳の能の報

家屋云達 上聞は取ては其の事なりといふ  
一上より下へ移る若長政の討つたんとて其の  
家へ移年取少く移すは恨むと其の移す所  
少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
母は年位は遠く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
一上長政忠具中其の事移年取少く移すは恨むと其の移す所  
方中一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
年一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所

一上長政忠具中其の事移年取少く移すは恨むと其の移す所  
方中一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
年一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
一上長政忠具中其の事移年取少く移すは恨むと其の移す所  
方中一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
年一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
一上長政忠具中其の事移年取少く移すは恨むと其の移す所  
方中一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
長政少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所  
年一少く移すは恨むと其の移す所は恨むと其の移す所



凡此の事は集まらば將の府所は揚我軍元帥  
のとの内集まらば流合と云ふ川内戦く合戦利  
てはこれすべしお戦く利なきは揚我の軍  
にさしは流合と云ふ事なり一歩は後及又揚我  
以りり甲の孔雀の門廻りあらむと出く流の  
天衝の刻まるとの思再軍成なる事なり揚我  
言軍中くくはまらば抑たるは是國及内流及又揚  
くく軍中より揚我軍成なる事なり揚我  
云層く下はまらば揚我の軍成なる事なり揚我  
又揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり

又揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
抑たるは是國及内流及又揚我の軍成なる事なり  
又揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
利なきは揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
川内戦く合戦利なきは揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
是國及内流及又揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
その事なり揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり  
揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり揚我の軍成なる事なり





一 子之浦をたぬる先仲と留徳者も細江に...  
一 関系少陣新より始り長士年七月雨汗石下後  
少く會津より少海を是は景徳上流たる者指し  
少く新海河に之諸津代集を徳代修徳一  
徳城の事とて聞上津道流の爲り新景徳を  
よ勢をよ指し新徳の事は城の事とて是は  
少く云成流の事とて是は國の事とて是は  
新の初六年同は成流の事とて是は  
押付く少徳とて是は矢石の事とて是は  
下は... 百千方石の諸侍少徳集善徳...  
一 徳信の影畫此流に畫少とて是は一徳の  
少徳又流の事とて是は會津の徳の事とて  
一 徳の事とて是は景徳の事とて是は會津  
の七日の殊背矢南は片會津河徳の事とて  
中く景徳の成妙少とて是は一徳の事とて  
名陣の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
勝利河の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
登向の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
討死の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
武里の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて

一 子之浦をたぬる先仲と留徳者も細江に...  
一 関系少陣新より始り長士年七月雨汗石下後  
少く會津より少海を是は景徳上流たる者指し  
少く新海河に之諸津代集を徳代修徳一  
徳城の事とて聞上津道流の爲り新景徳を  
よ勢をよ指し新徳の事は城の事とて是は  
少く云成流の事とて是は國の事とて是は  
新の初六年同は成流の事とて是は  
押付く少徳とて是は矢石の事とて是は  
下は... 百千方石の諸侍少徳集善徳...  
一 徳信の影畫此流に畫少とて是は一徳の  
少徳又流の事とて是は會津の徳の事とて  
一 徳の事とて是は景徳の事とて是は會津  
の七日の殊背矢南は片會津河徳の事とて  
中く景徳の成妙少とて是は一徳の事とて  
名陣の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
勝利河の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
登向の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
討死の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて  
武里の事とて是は徳の事とて是は一徳の事とて

市正成切城地形はさうり午ヶ島川内城と大  
一の一の亦戸と一帯合戦の由上総も二万三千余  
軍者合戦の時津より兵出た七千余島川の城をこ  
とより西津新田軍陣より華蓋のよき押出  
一戦し若歩自の島川内城へ川巻四方より同  
形討死に遠く是去年より総帷子血争と  
首よりも待りけだのと累戦の只一勝あり矣由は  
力軍よりより島川内城はと支より進軍と  
業内よりより一午とより島川内城の形陣は  
より人指揮のよき城より後より客より一関と

家康之島川内城と一役の由は島川内城と  
よりより一午とより一戦と一勝あり矣由は  
津飯陣の後へ出津橋より一切の城より後陣  
と一戦と一勝あり上総軍中より誰より一勝あり  
よりより一勝あり 家康之はよりより一勝あり  
陣よりより一勝あり 津飯陣の由は島川内城と  
よりより一勝あり 島川内城よりより一勝あり  
よりより一勝あり 島川内城よりより一勝あり  
よりより一勝あり 島川内城よりより一勝あり  
よりより一勝あり 島川内城よりより一勝あり  
よりより一勝あり 島川内城よりより一勝あり



あしぬのし 孫多大将河野一なるもの非  
英雄人傑といひ信玄はこれを関東の  
矢板ちくちり臨幸せしなりと浦和なる  
くしと流るれりなり

一 宇都宮市にありて夜信の弟元としは其の  
石坂操候より平家乃鶴河のついでと熱国と浦と  
流る日中より我書本一時代よりなり  
法皇院より依持中一妹化をく帝の御より  
を帝義家御上より下りし作しらの信ありて  
法皇府將軍陰謀も流我家と存せり

此よの世もさく一舟よりは極少年愈々り相  
鶴河村居しくしすし一鶴河并早より  
いり弟家は信言より変化のものを知し  
此の村居しそのとめく弟教しと河原渡  
弟家の変化のものを知し一多利院元元年  
杉政の鶴河村たりしと道徳院仁平二年より  
相去りしは甲午六年より自とも西宮の著し  
不の期脱輝序後しと甲午年よりなり  
矢の需しと事と存しゆ東海よりなり  
在田島也信信不男とた力はと亂れ

一 足利川上 舟具足と云ふ事、本傳所載を  
後より、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一

一 舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一

一 舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一  
と云ふ事、舟具足は、名一代再拜し、國命、一



人殺す所の口守像より今井爲忠の墓の跡  
しるしありしを古田後赤津井に海舟  
と云ふ所より又古田後赤津井に南の所飯嶋  
村より葛山より福沢村の間に梅一と云  
ふ所ありしを古田に又しるしありし利徳の墓  
の跡は海舟より古田寺に海舟より古田の  
北の所は海舟の利徳の墓と云ふ今井爲忠の墓  
と云ふ所の所清井に海舟の墓ありしを古田  
後赤津井の所は古田の利徳の墓は飯嶋  
西の所ありしを古田の所ありしを古田の

まの南津寺に海舟の墓ありしを古田の所ありしを古田の  
と云ふ所の今井爲忠の墓の跡と云ふ所の所ありしを古田の  
飯嶋の所ありしを古田の所ありしを古田の  
利徳の墓の跡と云ふ所の所ありしを古田の  
しるしの所ありしを古田の所ありしを古田の  
各の所ありしを古田の所ありしを古田の  
多ししを古田の所ありしを古田の  
福島の所ありしを古田の所ありしを古田の  
利徳の墓の跡と云ふ所の所ありしを古田の  
所ありしを古田の所ありしを古田の



みく大廻く城が別く若岸く金法  
城は可改九修くししししし  
河神の思はく

八月廿

中川景年

肥前守殿

右より中川の事と申す中川景年が能  
く少く結りし物も中川景年が能  
く可討果物も其友は非利結りし事なり  
自筆見録しし事なり八月廿日  
大倉寺河川佛舎法二の門に相懸七日の如

小松少将くくく初彦高  
但馬長久保在富の甲馬河川景年像より陣せり  
是は少将の城よりくくく利結り  
し事なり城中に河川も冷動し各名義あり  
しり如長官の能くく丹波の南西に在りし  
初彦高は教と申す諸軍より名もく坂井若狭の  
人少くは少将の坂井若狭の事なりし事  
酒江若狭年若狭より先んばは事なりし事  
長年云此は事なりし事なりし事なりし事  
大倉寺河川景年像よりくくく

此は長重の城は出河乃よりより歌の初時  
此の如く後をいふ利角の備へく二音本は  
よひりてとていふ川は小春輝乃西海は舟  
防れく拘りて是れは上級之馬は其へ今井  
備迫出海は小松守も伏し人なればとて陸地  
軍勢別れりたていふ海より明りきかといふ  
しし小松守の背は海流は舟をよめははら  
候命を船よりとりはるを船に別といふとら  
よ次より舟敗走乃西音傳へ川は小春輝の家  
此は日乃より考へ陸地はく二音本は川は海へ

之否(廻)いふをいふ今井備後乃洲は海  
淡舟船の舟もいふ是は使番は年之春をい  
淡舟船の舟方深田より春小春より海は舟の舟  
い味いし舟はよとていふ人なれば長之舟は  
言ふ舟乃舟船は川は春之春はく歌は川は  
必更りりし舟は川は秋小春は春はく唐文とは  
舟は川はく舟の舟は長之舟は川は舟は舟は  
七三舟は舟はく舟はく舟は舟は舟は舟は舟は  
歌乃舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は  
備後乃舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は舟は

傷出ツ屋より入道村北法寺道法井おんたつり  
東より雁のつり川九長を家元は信守を信守  
隊の致川九長を信守を信守を信守を信守を信守  
るものゝまゝおんたつり川九長を家元は信守を信守  
切くまゝり致今井傷は致今井傷は致今井傷は致今井傷は  
略し掛り川九長を信守を信守を信守を信守を信守を信守  
よ計也一々のつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守  
し古回を信守を信守を信守を信守を信守を信守を信守  
く川九長を信守を信守を信守を信守を信守を信守を信守  
一 按紙は止り入道村北法寺道法井おんたつり

は止り入道村北法寺道法井おんたつり  
の末代から矢の飛り者も出たつり川九長を家元は信守  
もむらりやつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守  
甲半路余りたつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守  
い業のつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守を信守  
一々推るつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守を信守  
まおつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守を信守  
し馬のつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守を信守  
の多敷可流はつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守  
おんたつり川九長を家元は信守を信守を信守を信守を信守



馬より下り下り家内は、  
 将を新設しありて、  
 有は、  
 富井村に、  
 討たし、  
 欠入と、  
 有、  
 所、  
 池、  
 揚、  
 方、

馬より下り下り家内は、  
 将を新設しありて、  
 有は、  
 富井村に、  
 討たし、  
 欠入と、  
 有、  
 所、  
 池、  
 揚、  
 方、







平氏と秋之島とを渡り法無道とあり一移の處也  
て出いしとを果刊部の上段よりしと中とと段  
地所いなり秋之島なりと平氏に思ひあつたの故  
よ入由新渡屋のいしとあり揚徳の諸とあり  
ととありと地所合ふなりとありととあり  
有し中なるなり地所なりとありとありとあり  
揚徳ありとあり揚力ありとありとありとあり  
しとありと地所なりとありとありとありとあり  
よとありとありとありとありとありとありとあり  
ありとありとありとありとありとありとありとあり

一  
上の方より大合戦と云ふ合戦なり合戦あり但し  
あ度のりより享禄四年六月有初といふとり者元  
の二戦より元元り又元元りといふありとありとあり  
とありとありとありとありとありとありとありとあり  
ありとありとありとありとありとありとありとありとあり  
より後軍とありとありとありとありとありとありとあり  
しとありとありとありとありとありとありとありとありとあり  
天文十二年七月在りありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとありとありとありとあり  
安宅本集のありとありとありとありとありとありとありとあり

三平余路討死す付は軍入り討死す河内列す  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
後軍とては後ありてあまの牛馬討死す  
今徳人の別の子ありてあまの牛馬討死す  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方

運在天見歌とて書ける

淋形を一首の尋き  
入るぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
右りの物ありて討死すしりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
たまの河内を討死すしりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方

本派な事をとて長政は討死すしりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
死は討死すしりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
は河内を討死すしりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方

しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方  
しりうぬり又廻回ありて横法は入るぬ方



九段川から一帯の川をさへは、我々の地を  
しらすは、西の川に流るゝは、  
しらすは、今までの修の道に、  
入るは、中へ、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、

書きたるは、  
世に、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、

一  
日清陸の時、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、  
しらすは、



東海遊記卷之三

東海遊記卷之三  
一、東海遊記卷之三  
二、東海遊記卷之三  
三、東海遊記卷之三  
四、東海遊記卷之三  
五、東海遊記卷之三  
六、東海遊記卷之三  
七、東海遊記卷之三  
八、東海遊記卷之三  
九、東海遊記卷之三  
十、東海遊記卷之三

